

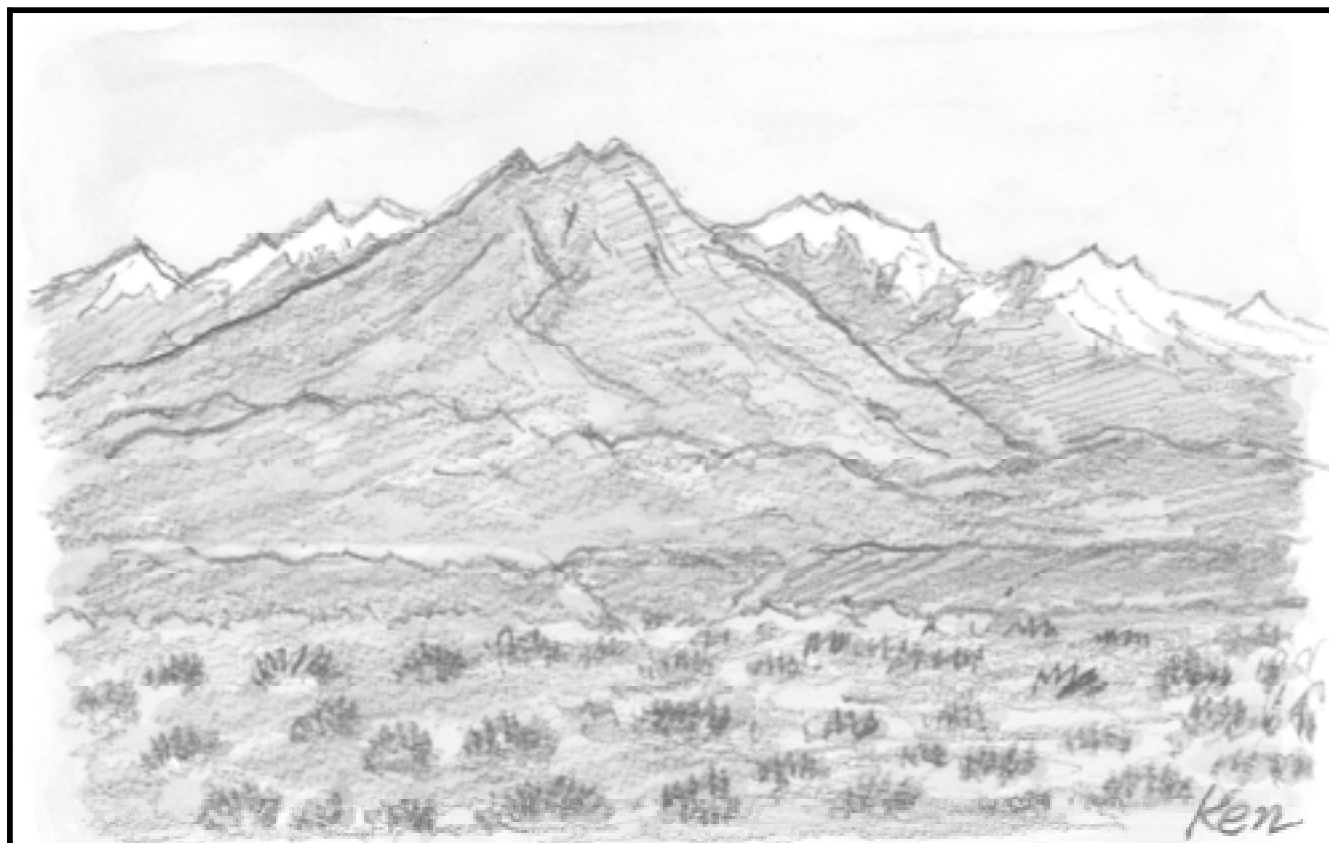


自然観察

No. 77
2005
11月

目次

• 第16回滝野の自然に親しむ集い決算報告	2
• 滝野参加者の声	2
• 研修報告	3
2005年度地方研修会報告	3
• 観察部からのお願い	3
来年度観察会企画募集	3
• 雪の秘密をさぐる	4
第3回 一つの雪国実験	4
• 2005年 忘年会のお知らせ	5
• 救急救命講習会のご案内	5
• フィールドニュース	6
室蘭市 恵庭市	6
• ウォッチングレポート	7
• 会計からのお願い	9
• 参加者の声	10
• ウォッチングプラン	11
• 事務局だより	12
理事会だより	12
緊急連絡先他	12



思い出の外蒙古の山々

第16回 滝野の自然に親しむ集い 決算報告

滝野会計担当 横山 加奈子

本年度よりキャンプファイア実施費用がかかる事になったり、自然観察ハイキングコースの下見を2回行ったことや昨年の反省から学園へ食数の申し込みを多くしたことなどにより赤字になりました。学生(日帰り)も5名受け入れました。

収入の部

項目	金額	備考
参加費	212,200	一般参加者 155,000 指導員 57,200
懇親会参加費	9,000	500×18人
計	221,200	

支出の部

項目	金額	備考
学園利用納入金	159,480	施設利用料41,580 食費91,500 シーツ10,800 薪他5,600 キャンプファイア10,000
交通・通信費	29,340	ハガキ切手代19,340 渉外費(交通・通信)10,000
事務用品・写真代	12,221	各種用紙代6,394 印刷代1,154 インク代1,344 写真代3,329
飲食費	16,902	懇親会飲食費15,207 ハナナ・麦茶1,695
保険料	6,900	150×46人
入園料	14,780	当日入園料 大人280×36人 子供50×22人 下見400×9人
その他	2,430	電池代1,010 打合せ会議室使用料1,000 振込手数料420
計	242,053	

2005年度収支決算

収入計 221,200 - 支出計 242,053 = -20,853 繰越金より補填
 前年より繰越金 今年度収支金 次年度へ繰越金
 259,891 - 20,853 = 239,038

滝野参加者の声

滝野の集いに参加して

札幌市豊平区 大本 純子

前日までの雨がうそのように晴れ上がった。まるで自然が私たちを歓迎してくれているようだった。

宿泊場所は、廃校になった昔の小学校。古臭い木の匂いがした。一瞬、二十数年前の小学校時代を思い出させる懐かしい匂いだった。

せせらぎウォッチングでは、子どもたちが網で水の生き物を獲ようと夢中になった。水に入って、水の冷たさ、川底のこぼこを肌で感じたに違いない。

夕食は、班でカレーを作った。まき割り、かまどの組み立て、テーブル・いすのセッティング、食べるための準備も子どもたちにとっては遊びの延長だ。どれもこれも我先にと楽しんでやっていた。汗を流したあとに食べるカレーは格別の味だった。

夜のキャンプファイヤー、火の灯りの中での楽しいゲーム。子供たちは、その日会った同年代の子供たちと思いっきり大声をあげ、大人も少し照れながらも、気がつけば微笑んでいた。

暗い森の中を静かに歩いた。懐中電灯の光がなけ

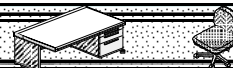
れば、足元もおぼつかない暗い道だ。一人では怖くて歩けないような道だ。日頃、一番頼りにしている視覚の情報がないので、他の感覚をよく使ってみましょうという指導員の方のお話。耳をよーく澄ましてみたが、この時は、風がほとんどなかったせいか、あまりいろいろな音や声は聴こえなかった。それでも葉のカサカサいう音や小枝のぶつかる音にびくっとした。

星空をあんなふうに寝転んで観察したことはなかった。普段見る空よりも暗く星が見えた。自然のプラネタリウムのような感じだった。もっと真っ暗だったら、もっとたくさん星を見られたらいい。

夜、子どもたちは、お風呂には入れないこともテレビを見られないことも一言も言わなかった。それ以上に快適で楽しいひとときだったのだから。

次の日の明け方、雨が降ったらしい。でも、ほとんどの人が目覚めるときには、またすっかりと晴れ上がった。やはり、滝野の自然は私たちを歓迎してくれていた。

こんなに美しく、逞しい、時にはきっと厳しい自然にたった二日間ではあったけれど、少しは仲よくなったのではないだろうか。



2005年度地方研修会報告

テ ー マ： 身近な昆虫へのアプローチ 嫌われ者『カメムシ』を例に
 実 施 日： 2005年8月21日（日）9:30～13:00
 場 所： 長橋なえぼ公園「森の自然館」小樽市幸1丁目
 講 師： 小樽市博物館学芸員 山本 亜生 氏
 参加人数： 15名

今年の地方研修会は、自然観察会の対象としての昆虫の取り上げ方についての研修でした。昆虫類は脊椎動物とともに最も進化したグループです。脊椎動物とは違った系統ですが、その種数も個体数も圧倒的に多く、生態系の中では第一次消費者として重要な役割を果たしています。しかし体も小さく、動きも早く、野外での観察はとくに困難を伴います。それが自然観察会のテーマになりにくいことの原因になっていると思います。

（研修部長 後藤 言行）

（概要）

研修は分類の「目」ごとの見分け方の特徴を学んだ後、実際に野外に出て捕虫網で捕獲する事から始まりました。「どのような天候のときにどのような場所に潜んでいるのか」を知る事は観察の第一歩なのですが、これが中々難しく、「昆虫の気持ちになりきって」というよりも「宝探し」のレベルに留まっている人がほとんどでした。

捕獲した昆虫は持ち帰って双眼実体顕微鏡で観察しますが、色といい、形といい、実に多様で美しく、見飽きるという事はありません。しかし、肉眼での観察は限界があり、やはりファールのような顕微鏡が必要です。バードウォッチングに双眼鏡が

必携であるように。昆虫ウォッチングがもっと一般的になれば顕微鏡も双眼鏡並みに手ごろで便利なものになるでしょう。いや、そうなってほしい。（これは講師の山本亜生氏の熱い願いでもあります）

観察した昆虫はカメムシ類が多かったのですが、会員の皆さんのイメージを一新するお話を一つ。野外に出てすぐに出会ったカメムシの匂いを嗅いでみんなビックリ。オレンジの香りがしたのです。オオツリバナ、マユミ、ツルウメモドキなどニシキギ科の植物に腹の黄色いカメムシが止まっていたらぜひ匂いを嗅いでみてください。キバラヘリカメムシと



観察部からのお願い

今年もまた、来年度（2006年度）の観察会予定表作成の時期が近づいてきました。それにあたって観察部では、会員各位から来年度の観察会企画を広く募集いたします。

つきましては、今年度観察会予定表に準じ、

「月日」、「観察地」、「テーマ」、「集合場所・時刻」、「交通機関」、「連絡先」等の各項目を記入し、下記宛郵送してください。

なお、保険適用（観察会集合場所から解散場所まで）の関係上、当会では、参加者を観察会開催地まで指導員の車に同乗させることは、原則として認めておりません。企画・運営にあたっては、その点に留意し開催場所、および集合場所等の設定を行うよう、よろしくお願いいいたします。

募集期限は11月30日までとし、12月中に観察部会で、日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。

なお、追加および訂正等につきましては、1月末まで受付いたします。

観察部 山形誠一

〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

秘密とはそもそも「隠して人に知らせないこと」の意味ですが、「雪の秘密をさぐる」と題したこの連載の第1回目で、私は「雪国は灼熱の世界」という秘密を明かしました。今回はもう一つの「雪国の秘密」をお話しようと思います。それは、雪国に住む私たちなら誰でも体験できることなのですが、非雪国の人たちにとってはそうはいきませんから、たとえ明かされても依然として秘密のまま残ることになるでしょう。

雪が静かに降っています。場所は雪国ならどこでもよいのですが、たとえば広い野原の真ん中ということにしましょう。風は吹いていませんから、雪のひとひらひとひらは音もなく地面に降り積もり、周りのあらゆるものを白く塗り替えていきます。そんなとき空を見上げますと、雪片は空の奥底からまるで手品のように後から後から湧き出てきます。雪片は静かに顔に降りかかり、その流れは止まることはありません。しばらくして目が慣れてきますと、自分に向かって舞い降りる雪片の一つひとつが識別できるようになります。そうなりますと次の瞬間、雪しか存在しない広大な静止座標系の中に自分の体が吸い込まれてゆくのを感じます。それは経験したことのない孤独と恐怖の世界です。そして孤独感と恐怖感が頂点に達したとき、はっと我に返ります。

雪国に育った人は、子供の頃にこんな経験をきっと一度はしたことがあるのではないかと思います。もしもこのような経験をしたことがないとすると、それはたいへんもったいないことだと思います。というより、たいへん不幸なことだと思います。これは、雪の降りしきる静寂空間でしか経験できない一つの壮大な雪国実験なのです。この実験がどんなに素晴らしいものであるかは言葉では表現できません。その意味は体験によってしか理解できません。

雨が降ってもこのような実験はできません。それは、雨粒は透明ですし、また雪に比べると高速で落ちるため、落下中の個々の雨粒を私たちの眼は識別できないためですが、それより、雨に濡れながらのこんな悠長な実験をだれもしたがりませんからです。しかし、雪の降りしきる中で上空を見続けることはそれほど苦痛ではありません。そこが雪原なら仰向けに寝ころんで実験を続けることもできます。

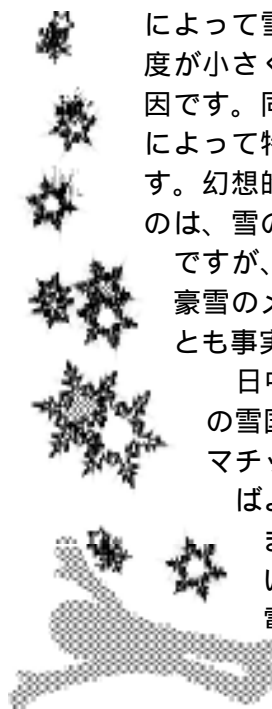
雨粒の落下速度は毎秒数メートルほどですが、雪結晶の落下速度は、結晶の形によっても違いますが、おおざっぱにいては毎秒約50センチメートルです。これは、雪結晶に働く重力と空気抵抗との釣り合いで決まる速度ですが、幾つかの雪結晶が絡み合ってきた雪片の落下速度はもっと小さく、毎秒30センチメートルにもなります。私たちが風を顔に感じたり、木の葉が揺れ始めるのは、風速がおおよそ毎秒1メートル以上になったときですから、雪片の落下速度はたいへん小さい速さといえます。

その証拠に、たとえば高さ2000メートルの雲の中で雪が成長したとしますと、地上に降ってくるのにおよそ2時間もかかります。ところが、どんな静穏な日でも上空ではいつも風が吹いていますから、雪は風に流されることになり、風速をかりに毎秒10メートルとしますと、地上に達するまでに雪は60キロメートルも風下に流されることになります。言い換えると、降ってきた雪は、頭上ではなく60キロメートル風上で生まれた雪なのです。これは、晴れているにもかかわらずひらひらと雪が落ちてくる、いわゆる「風花(かざはな)」の原因です。

雪国実験が可能なのも、風花を観察できるのも、雪の落下速度が小さいことによるのですが、これはまた雪国特有の障害や災害の原因にもなります。

それは、吹雪や豪雪です。吹雪は、風によって雪が舞う現象ですが、落下速度が小さく風に運ばれやすいことが原因です。同様に、豪雪は上空で雪が風によって特定の地域に集中した結果です。幻想的な風花や雪国実験が可能なのは、雪の落下速度が小さいためなのですが、皮肉にもこの性質が吹雪や豪雪のメカニズムを提供していることも事実なのです。

日中の雪国実験に比べると、夜の雪国実験はもっと幻想的でドラマチックです。好みの照明を使えばより個性的な雪国実験となります。そしていろいろな新しい発見があるはずで、懐中電灯の光で自分のサンピラーをつくることだって決して無理な相談ではありません。

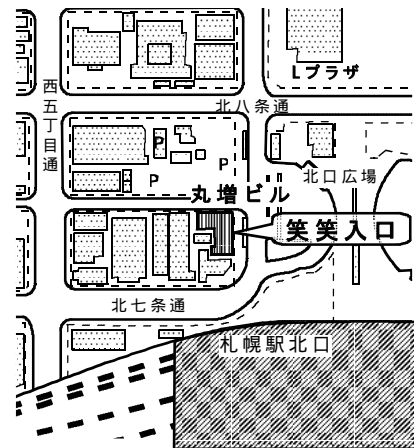




2005年 忘年会のお知らせ

親睦を深め、来年の活力をつけませんか。
多数のご参加をお待ちしております。

日 時： 2005年11月26 日（土） 午後6:30～8:30
場 所： 「笑笑（わらわら）」
札幌北口駅前 札幌丸増ビル地下1階
（ JR札幌駅北口より徒歩2分）
札幌市北区北7西4 Tel 011-717-2088
会 費： 飲み放題 男性3,000円 女性2,600円
当日会場にていただきます。
申 込： 富田 0123-34-4778
須田 011-752-7217
11月23日までにお申し込み願います。



事務局からお知らせ

《 救急救命講習会のご案内 》

とっさの時に応急処置が出来るようにと救急救命講習会を開催します。
自然観察の案内人として、責任ある行動が取れるように、受講したことのない方は、是非、今回受講されますようご案内いたします。
また、受講の経験のある方も年に一度の講習会を受けられますようお勧めいたします。
今回はAED（自動体外式除細動器）の使用法の講習もあります。

【日 時】2006 年1月29日(日) 9:00～16:00
【講習会場所】： かでの2・7 320会議室 （中央区北2西7）
Tel 011-231-4111

【指 導】： 札幌市中央消防署、日赤北海道支部

【費 用】： 無料

【日 程】： 9:00～12:00 心肺蘇生 AED

人工呼吸法(人形使用)、AED使用法講習 他。

以前の受講者は修了証(カード)を持参してください。

12:00～13:00 休憩（要昼食）

13:00～16:00 救急処置

傷と止血・包帯・骨折・捻挫・熱中症・虫さされ など。

【用意するもの】： 実技のしやすい服装(ジャージ他)、筆記用具、昼食。

同封の申し込み用紙をハガキに貼付し、1月9日必着で郵送してください。

問い合わせ：事務局 Tel・Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com



小さな森と、小さな池

室蘭市 太田 誠

私が自然環境に興味を持ったのは一体何歳くらいだったろう？

ただ鮮明に覚えていることは、梢の間から降り注ぐ西日に照らされて瑠璃色に耀く鳥(オオルリ)を見たその一瞬の事である。それは私が住んでいる室蘭にある「楽山」と言う標高91メートルの山すそに広がる小さな森であった。それが小学校の低学年であった事は確かだが、何年生かはわからない。

また、通っていた小学校の裏にあった清水が湧き出る小さな池で、トン魚(トゲウオ)取りをして遊んでいたところ、水辺から急に飛び出してきた朱色の腹をしたトカゲ(イモリ)を見て、慌てふためいた事、この2点が自然観察の眼をはぐくんだ原点のように感じられる。

この森も、池も当時の私には大きなところであったが、今考えると家の近所の小さな林と池である。幸いこの様に私の幼少のころ、周りに自然豊かなフィールドが身近に在り、意識せずとも自然の恩恵を十分に受け取ることができた。

近年、どこの地でも都市化が進み自然破壊が進行しているが、探せばこのような「小さな森、小さな池」はまだまだ残っているのではないのでしょうか？

「自然」は大きいだけでなく、小さくてもその範囲の中にある多様性を知ることにより大きな感動と驚きを得ることができます。今の子どもたちに身近な小さな森と小さな池を伝える活動をしていきたい。

最後に、50代半ばにして、近所の老夫婦にあなたは子供時代からよく色々な鳥をしっていたねと言われ、鳥少年であったことを気づかされた。子供の小さな胸に残った「自然の小さな感動」は、大人になって大きな喜び花となるでしょう。



ミニシャンデリア(ミツバフウロ)(端野 M.T.)

春香山のカタクリ

恵庭市 橋本 清司

高山植物の美しさにひかれて山登りをしていた若い頃、養老牛で開催された指導員講習会に参加して仲間に入れていただきました。なのにそれ以来、観察会等の行事に30数年来不参加が自慢(?)で、会費だけを納めている会報の読者で、皆さんに申し訳ないと思いながら、自称「ペーパー指導員」と苦笑しています。

5月末、カタクリの花を訪ねて春香山に行きました。例年がない大雪で土場から頂上まで雪がずっしりと残っていて、そのためか開花期は遅く、麓から土場までの道すがらカタクリの生態を観察することができました。

登りはじめは可憐な花からは想像外の結実したもの、そして咲き終わったもの、花弁をそり返しているものや放射状に広げたようなものから開きかけているもの、細長い蕾、雪の上に2枚の葉を広げている逞しいもの、雪の中から突き出ている萌葱色の芽など、成長の過程を逆に追いながらその変化を楽しみながら登っていきました。

途中、カラスアゲハが蜜を求めてとまっている姿が、そして、紅紫色の花々の中はかなり大ぶりのもの(1.4倍?)2株が目に入りました。どちらの個体も葉の紫褐色の斑紋がはっきりしていなかったように思います。淡紫色の8枚の花びらなので、珍種と思い期待を込めてシャッターを切りましたが、できあがり鮮明な写真でない(たくさん写しておけばと後悔)そのままになっていました。今回原稿を依頼されたので思い出して書いてみました。

このように勝手気ままに自己研修(?)していますが、何時になると「ペーパー指導員」でなくなるのかなと自問自答しています。



花びら8枚のカタクリ (橋本)

札幌市手稲区 星置川 05年 6月26日

参加者19名 指導員12名 曇/晴 道新、朝日、読売、FM小樽
 <星置川と草原の生物たち>

「前日および当日雨の場合は中止です」と新聞に載せてもらったにもかかわらず、前日は雨、当日も朝方まで小雨。「小雨でも決行ですよ」と、先輩指導員。誰も来ないかも・・・と思いつつ集合場所の「ほしみ」駅前へ。

根岸さんはじめ、12名の指導員。子供たちも3名参加してくれて、ほっと胸をなでおろす。「本当に参加したい人は、よほどの雨でない限りいらっしゃる」とのこと。今日は、熱心な参加者らしい。

星置川は、札幌市と小樽市の境界線で、今回観察した所は、札幌市の管轄。堤防から水辺に、コンクリートで階段状になっていて、川に入りやすい。子供も大人も、夢中でスジエビやヤツメウナギ、フクドジョウや水生昆虫を捕まえる。根岸先生に解説していただく。来年は小雨決行で実施しよう。水辺の観察会には、ピッタリのポイントらしい。

(伊藤 佐保記)



千歳市 ママチ川 05年 7月 2日

参加者 7名 指導員 5名 晴 千歳市広報
 <川で楽しく遊ぼう>

千歳川に南から合流するママチ川の3地点を、市のバスでめぐる観察会。市環境課と共催の形をとって5年間実施している。

上流は自然林の中を流れる水温8度の清冽なママチ川で、ヒラタカゲロウなどを何種類も観察できる。

双眼実態顕微鏡「ファール」は、彼らの呼吸の様子や爪の先を興味深く見せてくれる。川が市街地に出る地点は、三面張りの水路に可倒式の堰が設けられた風景となり、NACS-Jの「川しらべ」でも最低ポイントがつく所。参加者の皆さんに、人間社会と川(自然)との関係のあり方を考えてもらえる場所だ。

最後の千歳川との合流点に近い園地では、今年もヤマメ、ウグイ、フクドジョウ、イバラトミヨがたくさんすくえ、プラ水槽と薄型ミニ水槽(プラ調味料ストッカー流用)を、ありったけ使って水族館のように観察する。

都会の中を流れる千歳川、ママチ川に多様な生態系があり、それは人間活動に翻弄されている危うい面もあることを、実感していただけたようだ。

(中原 直彦記)

小樽市 オタモイ海岸 05年 7月24日

参加者25名 指導員 6名 晴 朝日、読売、FM小樽
 <オタモイの植物と海底火山の活動の跡>

指導員6名、一般25名計31名で、好天に恵まれ、国定公園のオタモイ海岸を散策する。ヘラオオバコでホテル籠を編む実演や、ハハコグサを帯止めに加工する話の交流もあった。遠くに積丹半島を望み、海岸線の美しさや、伝説とロマンの龍宮閣跡に、さわやかに咲くオショロソウを全員で愛でる。エゾアジサイが優しく迎える登山道を登り無事解散。

(本間 正一記)

苫小牧市 錦大沼 05年 7月31日

参加者15名 指導員 5名 曇 道新
 <深緑の林を歩く>

観察会のテーマであった「深緑の林を歩く」は、天候が曇りであったために、晴天時の林の中、日差しをさえぎる森林の効用は体感することが出来なかった。そんな中、参加者から ゆっくり自然にふれて楽しかった 開催日をもっと増やして欲しいなどの感想をいただいた。

開催回数の問題については、次年度に向け検討していきたいと考えている。

(佐々木 昌浩記)

札幌市手稲区 手稲山 05年 8月28日

参加者16名 指導員 5名 晴 読売
 <山頂めざしゆったり山歩>

昨年新設されたオリンピアとハイランド間のゴンドラ前に集合。予定通り10時からの観察会開始となった。

カメラを向ける人、写真で調べる人、熱心に質問する人など、参加者自身が十分に楽しめた観察会になったようです。登り後半のヤナギランやヨツバヒヨドリなどの彩り、群落をみて一同大歓声をあげ、山頂へ向かった。

参加者の皆さんに、手稲山は十分楽しめる山というイメージを持って頂いた様で、来年以降の参加者増に期待したい。

(高田 敏文記)

千歳市 青葉公園 05年 9月 4日

参加者 9名 指導員 6名 晴 道新

<手話で楽しむ観察会>

聴覚に障害のある指導員 3名を含む計 6名の指導員で、初めて手話で楽しむ観察会を行いました。当日は天候にも恵まれ、とても良い観察会日和でした。

まず参加者に自然に関する手話単語「木、森、花」などを覚えていただいた後、ネイチャービンゴで青葉公園の自然に触れてもらいました。解説を絵や図、そして手話を交えて行い、ろう者にも目で見て分かるように工夫をしました。手話が出来る参加者は、私たちに手話でコミュニケーションしていただき、聞こえない指導者にとってはとてもありがたく思いました。

観察会終了後、参加者から「とても楽しかった、また参加したい」という声を頂いたときは、とても嬉しく励みになりました。観察会の間の手話通訳が時々人影になり、見えづらかったなど、反省すべき点もありました。反省点を踏まえて、次回も聞こえる人も聞こえない人も一緒に楽しめる観察会にしたいと思います。

(川北 美由紀記)

小樽市 忍路海岸 05年 9月10日

参加者13名 指導員 9名 晴 道新、朝日、読売

<忍路の海浜生物と枕状溶岩>

初めての「海」の観察会であったので、「下見の下見の、更に予備調査」も含め2~3回の事前調査を実施した。

当日は指導員 9名、一般13名の計22名が参加。道南では珍しくないが(数は少ないらしい)和琴半島を除いては、ここが北限のミンミンゼミの声を聞き、1500年ほど前の枕状溶岩(半分以上はコンクリートで塗りこめられていた)を観察し、いよいよ海浜生物の観察となった。

ヤドカリの「家争奪戦」やウニ、ヒトデの「起き上がり戦術」などを観察できた。そのほかの小さな生き物たちの観察は、時間切れで今後の課題。

北大付属臨海実験所(現在では名称が変わっているらしい)の管理人、柴崎さんと、元管理人の信太さんには、ウニを用意しておいていただくなど、大変お世話になりました。ありがとうございました。

(後藤 言行記)

札幌市清田区 平岡公園 05年 9月11日

参加者14名 指導員 7名 晴 朝日、読売

<人工湿原の変わる様子を観察>

衆院選の投票日です。下見会は9時スタート。人工湿原の池には残念ながら今年も、イシガメ、ミシシッピーアカミミガメが放され、気持ちよさそうに甲羅干しをしています。近くのエゾサンショウウオが産卵する池には、ニジマスが放流され、捕獲の検討をしています。本番は10時半スタート。湿地の木道を覆うようにミゾソバが満開、親離れたシジュウカラ、ハシブトガラが、ヤマウルシの実をついばみ、人工湿原ではけがをして飛べない若いアオサギがカエルやトンボをねらっています。エゾイトトンボ、アキアカネ、ノシメトンボ、ルリボシヤンマなどが、産卵に忙しそうです。

昼食後、今日の目玉ルリミノウシコロシ(サワフタギ)に歓喜の声を聞き、アクシバ、ナツハゼ、ミヤマザクラ、ヤマブドウなど、秋の実を見ていただきました。目に付く現地の花は、エゾゴマナ、サワギキョウ、ハンゴンソウ、ワスレナグサ、エゾミソハギ、ナガボノシロワレモコウ、エゾシロネ、エゾノヒツジグサ、オオバセンキュウ、ドクゼリなど。

(佐藤 佑一記)

札幌市 錦大沼総合公園 05年 9月18日

参加者 名 指導員 名

雨のため中止

苫小牧市 錦大沼総合公園 05年10月 2日

参加者28名 指導員 5名 晴 道新、朝日、苫小牧市・千歳市民報

<キノコの不思議をさぐる>

天候、晴れ。なんとなくゆったりとやれる。いつものことながら天候がよければ、すべて順調に事が進む。

参加者の大半は苫小牧在住者、21%が苫小牧外からの参加者となった。参加者の中に道新記者が同行。

例年と比べキノコの種類がやや少なめ。これも温暖化の影響だろうか。それでも出発して20mも歩くと、さっそくキノコを発見。アンズタケ、ハタケシメジ、チョウジチチタケ、ナラタケ、ムキタケ、アカヤマタケなど次々と出現。参加者一同、キノコの形、色彩、匂いなどを観察。キノコの役割、不思議を学んでいた。観察できたキノコ50種。

参加者の中に他市より移住してきた方がおり、苫小牧は自然の乏しい所と聞いていたが、こんなすばらしい所があって感激したとの感想を寄せていた。いつものことだが開催時間の延長を求める声もあり、今後に向け検討を要する。

(豊澤 勝弘記)

札幌市北区 北海道大学構内 05年10月 2日

参加者19名 指導員 4名 晴

<エルムの秋>

心配した天候も、曇り時々晴れ。風もなく快適となった。参加者 23 名、2 班に分かれ、正門から中央ローン、農学部の南側から裏を回って、花木園までのコースとした。途中、古河講堂を初めとする歴史的建造物や、クラーク、佐藤昌介、新渡戸各博士の像や色々な碑、あるいはサクシュコトニ川の変遷を思ったり、去年の 18 号台風の爪痕の残っているポプラ並木や老木を観察したりした。10 月は、構内の紅葉の始まり。秋の草花、種々の木の実、由緒あるエルムの大木、2 種類の広葉樹の結合した木株など、自然のとりなす不思議な光景もあった。

また、キバナカラスウリ、アメリカツタ、カラハナソウ、ツルタデなどのつる性植物、花木園のバイカウツギ、ヒメトチ、アーノルドサンザシなど、在来種に混じった帰化植物、栽培植物の存在など、広い構内に注目すべき植物がま

だまだたくさんあることを皆で感じながら、12 時過ぎ、花木園を後に解散となった。楽しい散策だった。

(澤田 八郎記)

札幌市中央区 円山公園 05年10月 9日

参加者47名 指導員 7名 晴 朝日

<木の実と紅葉>

さわやかに晴れ渡った秋空。絶好の観察会日和の中、ドングリや木の実を中心にゆっくりと公園の中を観察して回りました。

今回は北区の和光小学校・家庭教育学級のみなさんが13名も参加してくださり、親子でドングリ拾い。

ミズナラ、カシワ、といった見慣れたドングリのほかにもアカナラ、ヨーロッパナラ、クリ、ブナなど普段気にとめない、ドングリの仲間の多さに円山の面白さを再確認してもらい、あっという間の 2 時間でした。

(山形 誠一記)

会計からのお願い

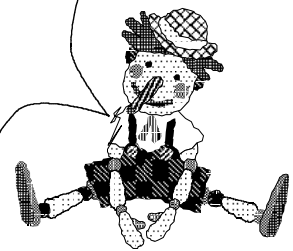
会費の納入はお早めに

退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。届が出されるまで会費のお支払いをしていただきます。

通信欄は住所変更等の近況報告にお使い下さい。
差し支えなければメールアドレスを記入願います。
既に入金済みの方には同封しておりません。

郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 中村真由美



2005年 滝野の自然に親しむ集いのスナップ (荻田)



苫小牧市 錦大沼総合公園 (05/7/31)

苫小牧市 南 誠司

会場へ向かう道路沿いは、既にノリウツギの装飾花が目立ち始めている。

曇天でしたが、主催者・一般参加者20名ほど。

行動開始後、すぐキノコで足が止まる。一日中、季節のキノコ・草木・自然等の話題で、参加者も自由に発言。まるで、自由発言有りの勉強会、わいわいがやがや、途中のヌメリササダケの俗名ズルンコには大笑い。前に進まず、進行担当者は「予定の行動ができない」と、嘆き始めるしまつ。解説担当者、参加者の話題の豊富さには、ほとほと感心させられた。

もし、小・中・高生の参加があれば、成人と行動を共にし、自然の成り立ちを感じ取るこの上ない学習の場になるであろうと実感する。

私は台風と'05年春のエゾシカによるツリバナの食害に注目したが、自然の力、私ごときが気をもむことは全くありませんでした。

いい汗の一日、有難うございました。

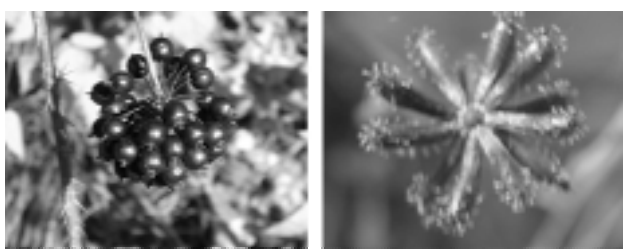
千歳市 青葉公園 (05/9/4)

札幌市北区 山中 純子

「手話で楽しむ自然観察会」 只今手話勉強中の私には、一石二鳥!! この日を心待ちにしました。

手話仲間と札幌から参加でしたが、豊かな自然環境と指導員の細やかな案内で時間も忘れるほどの散策でした。ビンゴ・ネイチャーゲーム? 植物を捜しあてた時の喜びは、ただ説明を聞き流すだけでなく、いつのまにか夢中になってしまいました。又手話通訳の説明しきれない部分は、パネルを使用しての、聞いて、目に触れてとても心あたたまる案内でした。

指導員の方々の事前準備は大変であったろうと思います。サブリーダーの補助もとても心地よく、より興味深く楽しい観察会となりました。お弁当の時間も親しく接することができ楽しいものとなりました。又ぜひ参加したいと思いません。ありがとうございました。



実 (左)エソウコギ (右)ノブキ 端野 M.T.

江別市 野幌森林公園 (05/9/17)

札幌市清田区 茂利 真彩(小4)

わたしはこのかんさつ会のネイチャービンゴでたくさんの事を勉強しました。たとえば黒い木の実(アマチャヅル)で甘いお茶ができること。

顔より大きい葉っぱを探して、ホオの葉という葉を見つけました。ネコジャラシに、にている「サラシナショウマ」は花でした。さわるとはじけて種が飛ぶおもしろい葉っぱもありました。

足の長~いザトウムシはたくさんいてきもち悪かったです。くきがまむしのもように、にている「コウライテンナンショウ」は、オレンジ色の見たことがない実がついていました。

一番たのしかったのはひつつき虫です。わたしはひつつき虫を3種類見つけました。友達と、ひつつき虫を集めて、家に持って帰って服につけて遊びました。知らない事がいっぱい楽しかったです。

蘭越町 尻別川 (05/10/16)

蘭越町 下島 綾子

近所に住んでいるので、毎年、捕獲場近くでなんとなくサケの遡上は見えていたので、今さらわざわざ皆で見に行くこともないかなと思いつつ参加しました。

今年はずじめて指導員の方の案内で数百m下流まで行って見ました。そこは目名川が尻別川に合流する場所で水深が浅く、川の中に入ってサケの様子を真近で見ることができました。

すごいスピードで行ったり来たりしているもの、オス、メスが一緒になってじーっとしているもの、おなかに卵を抱えたまま死んでいるもの、目の前でくり広げられる様々なドラマを見ているうちに、「私ってすごい所に住んでるんだ。」と突然、不思議な感覚におそわれました。

しばらくして娘が、「卵がある! 目があるよ!」と川の中から一粒の卵をすくいあげました。ここには、まだ、きちんとした自然の営みがあるんだとうれしい気持ちになった一日でした。

岩見沢市 利根別自然休養林 (05/10/16)

由仁町 降幡 吉志子

紅葉の森を何人かの会員さんのやさしく詳しくおとくいの植物について教えていただき、楽しい一日を過ごせました。又いつか参加してみたいです。

2005年度 観 察 会 (06年1月7日～3月26日)

下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所・時 刻	交 通 機 関	下 見	連 絡 先
2006年 1月7日(土)	雪氷観察会 (親子, 子供特集)	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学クラーク会館前 10:00集合～12:00解散 定員25名, はがきで申し込み 小3以下は保護者同伴	JR札幌駅北口から徒歩5分 地下鉄南北線さっぽろ駅, 北12条駅から徒歩10分 北大構内は駐車禁止		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒, 住所, 氏名, TEL, 年齢を書いて葉書(家族連記)で申込, 1月4日必着。〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1-13 須田節宛 FAX011-752-7217						
2006年 1月15日(日)	冬の野鳥と冬芽の観察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林駐車場 10:00集合～12:00解散 必要に応じて昼食持参	JR苫小牧駅前/バスターミナル 市営バス 9:12発 01 交通部前行き「美園4丁目」下車 徒歩30分(約2.4km) 無料駐車場あり	当日9:00～	谷口 勇五郎 0144-73-8912
2006年 2月5日(日)	冬芽と動物の足跡探し	白老町 萩の里自然公園	萩の里自然公園駐車場 10:00集合～12:00 必要に応じて昼食持参	JR萩野駅より徒歩約10分	1/29(日)	新岡 幸一 0144-83-2992
2006年 2月12日(日)	冬の水源トレッキング	札幌市豊平区 西岡公園	西岡公園管理事務所前 10:00集合～12:00解散 カンジキ スキーは各自持参 (用意できない方は1週間前までに連絡先指導員にご相談ください)	地下鉄南北線 澄川駅発「澄73」 「西岡水源地」下車	予定なし	佐藤 佑一 011-881-5336
2006年 2月19日(日)	動物の足跡探しと 冬芽の観察 (親子, 子供特集)	千歳市 支笏湖休暇村周辺	JR千歳駅前 9:00集合～13:00解散 千歳市環境課共催, 定員25名, はがき申し込み, 応募者多数のときは抽選 小4以下は保護者同伴 カンジキは, 主催者が用意必要に応じて昼食持参	JR千歳駅前より無料バス運行	2/12(日)	宮本 健市 0123-28-4720
申し込み要領 〒, 住所, 氏名, 年齢を書いてはがきで申し込み。2月15日締め切り。〒066-6868 千歳市役所環境課自然環境係宛 0123-24-3131						
2006年 2月19日(日)	冬に耐える植物	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス待合所 10:00集合～12:00解散	地下鉄東西線「円山公園」駅下車		山形 誠一 011-551-5481
2006年 3月5日(日)	春を感じに スノーハイキング	札幌市手稲区 金山～乙女の滝付近	JRバス「手稲金山」バス停前 10:00集合～12:00解散 かんじきか歩くスキーを各自持参	JRバス「手稲金山」バス停下車	2/26(日)	三浦 美恵子 011-682-6188
2006年 3月26日(日)	ヒシクイを送る 北川行きのヒシクイ観察とゴ ミかい	千歳市 根志越排水路周辺 (旧長都沼)	JR千歳駅前 9:00集合～13:00解 散 千歳市環境課共催, 定員25名, はがきで申し込み, 応募者多数のときは抽選	JR千歳駅前より無料バス運行	当日早朝～ カウンタ調査 実施予定	明野 幸久 01238-4-2460
申し込み要領 〒, 住所, 氏名, 年齢を書いてはがきで申し込み。3月22日締め切り。〒066-6868 千歳市役所環境課自然環境係宛 0123-24-3131						
2006年 3月26日(日)	雲を作ろう ゲームをしながらアイスクリ ームを作って科学も知ろう 木の温度や音調べもしま う(親子, 子供特集)	札幌市南区 真駒内公園	真駒内公園 屋外射野駐車場 晴ヶ塔前 10:00集合～12:00解散 防寒服, 雪の入らない靴 はがきで申し込み 小3以下は保護者同伴	地下鉄南北線 真駒内駅から 定鉄バス「南90」, 「南95～98」乗車 「真駒内射野交差点」下車	3/19(日)	須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒, 住所, 氏名, TEL, 年齢を書いて葉書(家族連記)で申込3月22日必着。〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1-13 須田節宛 FAX011-752-7217						
2006年 3月26日(日)	春と野鳥をさがそう	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合～12:00解散 あれば双眼 鏡 ルーペ 図鑑	最寄の公共交通機関はありません (自家用車のみ)	3/25(土) 9:00	佐々木 昌治 0144-67-2022

協議会行事他

年月日	テーマ	集 合 場 所・時 刻	交 通 機 関・内 容	連 絡 先
11月26日(土)	忘年会	札幌市北区北7条西4-1-2 丸増ビル 地下1階 笑笑 18:30～20:30	札幌駅北口 徒歩3分 会費 女 2600円、男 3000円 5ページをご覧ください。	須田 節 011-752-7217
2006年 1月29日(土)	救急救命講習会	札幌市中央区北2条西7丁目 カデル2・7 320号室 9:00～16:00	札幌中央消防署、日本赤十字札幌支部 詳細は、同封の申込書をご覧ください。	須田 節 011-752-7217

【事務局だより】



個人情報保護に関して、観察協議会としての考え方をまとめました。

「北海道自然観察協議会」は個人情報保護法の対象団体ではありませんが、個人情報保護の重要性を認識し、入手した個人情報は、会活動の目的以外に利用いたしません。

また、保有する個人データは適正に取り扱い、第三者に提供することはありません。

共催の観察会で協議会の保険を使う場合は、

参加者一人あたり50円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、1泊2日以上は当会の保険使用が認められません。

救急救命講習会開催について

当会でを行う講習会が受けられない会員の方は、防災協会や町内会で講習会が開催されていますので、機会があれば受講されるようにお勧めいたします。

ご逝去：10月17日 札幌市 引地克彦さん

ありがとうございました。

鹿島さんの申請により、富士ゼロックス端数倶楽部・富士ゼロックス株式会社様より各5万円の寄付をいただきました。

【理事会だより】

理事会議事録から抜粋

第3回理事会 '05/10/19 環境サポートセンター

- ◇ 個人情報保護
- ◇ 研修会報告 8月地方研修会実施。9月フォローアップ研修会は参加者少数により取り止め。
- ◇ 来年度観察会予定には、会場までの一般参加者の指導員車への相乗りは原則認めていないことに注意。
- ◇ 第16回滝野の集いについて決算報告。
- ◇ 理事選考委員会委員選出について（理事3名会員3名計6名）
- ◇ 忘年会 11/26（土） 笑笑 ◇ 救急救命講習会 '06 1/29 かでる2.7
- ◇ 市民活動全道フォーラムパネル展出展 10/2 かでる2.7
- ◇ 北海道高山植物盗掘防止市民フォーラム 11/19 北海道大学学術交流会館講堂

会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768	北海道自然観察協議会
		会 計	中村 真由美	〒064-0944 札幌市中央区
				/Fax 011-614-8365
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	2770-9-34461	北海道自然観察協議会観察保険料
		観察会担当会計	引地 輝代子	〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25
				/Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一	〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14
				011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	後藤 言行	〒047-0034 小樽市緑3丁目2-12
				0134-29-3338 E-mail gotoh-genkoh@blue.ocn.ne.jp
退会、住所変更の連絡他は	----->	事 務 局	須田 節	〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13
事故発生等緊急時は				/Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com
				北海道保険保証 011-222-0877（日・祝祭日は休み）
投稿や原稿は	----->	編 集 部	竹林 正昭	〒099-2103 常呂郡端野町字3区378-3
				/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙スケッチ 八木健三



自然観察：2005年 11月 15日 / 第77号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)

発 行 北海道自然観察協議会

編 集 北海道自然観察協議会編集部